

2. 令和8年見学会（DAIKEN 音環境ラボラトリー）開催報告

日本音響材料協会

日本音響材料協会では、正会員を中心とした情報交換や技術交流を目的として、毎年一回程度の見学会を実施しています。

2026年度は2月17日(火)に、岡山県岡山市にあるDAIKEN株式会社 音環境ラボラトリーにて見学会を開催し、正会員を中心に19名の方にご参加いただきました。

DAIKEN株式会社は、建築用内装材や住宅設備機器を中心に多様な建材製品を展開する総合建材メーカーです。1945年の創業以来、木材資源の有効活用や環境配慮型素材の開発に取り組んできた企業として知られています。住宅向けの床材・壁材・天井材に加え、音響製品、収納製品、工業用資材など、幅広い分野にわたる製品を提供しています。

今回の見学では、2025年11月に岡山工場内に新設された音環境ラボラトリーの他、R&Dセンターを中心にご案内いただきました。

見学に先立ち、会議室にて岡山工場の沿革とR&Dセンターの概要について説明を受けました。

1958年に創業した岡山工場は、ダイケンボード(木質繊維板)、ダイロートン(鉱物質繊維板)、ダイライト(火山性ガラス質複層板)、畳用ボードの四つの製品を柱として発展し、国内建材産業を支える重要な生産拠点として位置づけられています。

また、R&Dセンターでは「ずっとここちいいね」をキーワードに開発が進められており、「ずっと」は廃棄を出さないサステナブルな姿勢を、「ここちいい」は快適性の追求を意味しているとの説明がありました。特

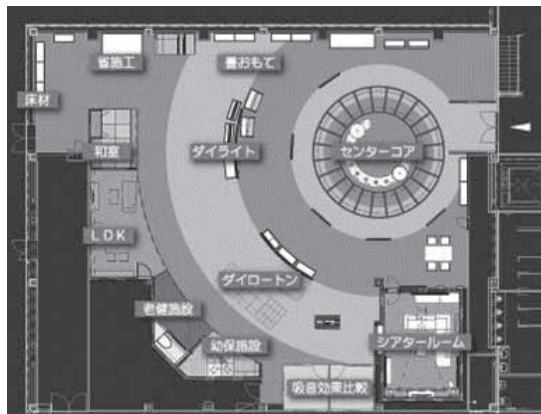


図1 R&Dセンター製品技術展示エリア平面図

に音に関する関心はコロナ禍を経て一層高まり、音環境ラボラトリー開設の背景となったことも紹介されました。

説明の後、音環境ラボラトリーとR&Dセンター内の各施設を見学しました。音環境ラボラトリーでは、残響室、無響室、木造実験室などを見学し、無響室では反射音がほとんど存在しない特殊な空間での音の聞こえ方を実際に体感しました。これにより、建材の吸音性能がどのように評価されるのかを理解することができました。また、壁・床・天井などの構造体を実際に組み上げて遮音性能を測定できる実大試験設備についても説明があり、そのスケールの大きさと実験環境の充実ぶりが印象的でした。

続いてR&Dセンターでは、製品技術展示エリアにて各種製品の説明を受けました。中でも、木質繊維から作られる畳おもて「ダイケン健やかおもて」について、和紙をこより状に加工し、樹脂コーティングを施した後、織機で織り上げるという工程が紹介され、機能性と意匠性の高さを実感することができました。



写真1 音環境ラボラトリー

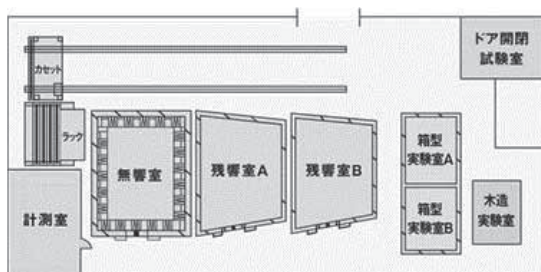


図2 音環境ラボラトリー平面図



写真2 無響室

約3時間にわたる見学会を通じて、音環境研究の奥深さとDAIKEN株式会社の技術力を改めて感じる、大変有意義な時間となりました。

最後に、見学の機会をご提供いただき、丁寧にご説明くださったDAIKEN株式会社の皆様に厚く御礼申



写真3 残響室

し上げます。

日本音響材料協会では、今後も定期的に見学会を開催してまいりますので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。